

東北・福島+埼玉=福の玉 が生まれ、ゆっくりふくらんでいきますように...

5月号
新緑
です
ね

福玉便り

ふく たま だ よ り

2017年5月1日発行

通巻第60号

発行:『福玉便り』編集委員会 NPO法人埼玉広域避難者支援センター・(一社)埼玉県労働者福祉協議会・NPO法人ハンズオン埼玉
協力:生活協同組合コープみらい埼玉県本部 デザイン:NPO法人ハンズオン埼玉 メール:fukutama@431279.com
連絡先:NPO法人埼玉広域避難者支援センター 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-21 ときわ会館4F TEL080-4331-0290

今月号から福玉便りの連絡先(と封筒)がかわりました。

「おや? 青い色の封筒じゃないの?」「あれ? 『福玉便り』ってかいてあるけど、労福協さんの封筒ではないの?」とお思いになった方もいらっしゃるでしょう。今月号から、福玉便りの連絡先が、これまでの(一社)埼玉県労働者福祉協議会から、NPO法人埼玉広域避難者支援センターとなりました。継続して発行していく体制を整えるためです。とはいえ、上記の通り、3団体による編集委員会による編集は変わりません。編集の方針や中身には変更はありません。これまでと変わらず、どうぞよろしくおねがいたします。



ママラン千会

2017に参加しませんか!

★6月21日(水)午前11時～午後2時

★パレスホテル大宮

大宮駅西口ソニックシティ

JR大宮駅西口より徒歩3分
(さいたま市大宮区桜木町1-7-5)

1階レストラン「バルテール」にお越し下さい。

★参加費:大人一人1,000円(子ども 無料)

ホテルのランチバイキングを食べながらおしゃべりしませんか

★申込み:電話で事前に予約をお願いします。

電話048-833-8731(埼玉労福協9:00～17:00)

★主催:ネットワークSAITAMA21運動

企画協力:福島県復興支援員埼玉事務所

先着
40名様

子育て中の
ママ、パパの
みなさん!

第5回 福玉出張相談会 in 春日部市

普段なかなか話せないこと、一緒に考えませんか...

●日時:平成29年5月31日(水)13時～16時

●場所:コーププラザ春日部 2階 (春日部市中央1-4-1)

●内容:①福島の郷土料理を楽しみましょう。
②弁護士による法律相談、健康相談、心の相談

※相談されたい事がありましたらお気軽にご相談下さい。より具体的な相談がございましたら、事前にご連絡下さい。

●福島県復興支援員 埼玉事務所

048-814-1111

火・水・木(午前9時～午後5時)で活動しています。



第15回 福玉交流サロン in 草加

●日時:平成29年5月30日(火) 11:00～

●場所:草加市文化会館 3F第一会議室

●富岡町県外避難者支援拠点事務所 TEL 048-833-8731

訂正 福玉便り 2017年春の号外号の28ページの埼玉県の東日本大震災復興支援相談窓口の連絡先がまちがっていました。お詫びして訂正いたします。

誤: ◆埼玉県の東日本大震災復興支援相談窓口 電話: 048-830-8281 (危機管理防災部危機管理課)

正: ◆埼玉県の東日本大震災復興支援相談窓口 電話: 048-830-8181 (危機管理防災部危機管理課)

『福玉便り』編集委員会

連絡先:NPO法人埼玉広域避難者支援センター
電話080-4331-0290

メール:fukutama@431279.com

こんな情報を掲載してほしい、この記事はよかった、など感想や質問をおよせください。

福玉便り
お送りします。

ご希望の方にお送りいたします。ご連絡お待ちしております。

福玉便りのお届け作業を一緒にやったださる方、大募集!

5月25日(木)13:30-16:00ごろ

場所:ときわ会館1F 福島県県外避難者相談センター 奥印刷などの都合で日程が変更になる場合があります。できれば、「ご一報・ご確認」いただければ幸いです。080-4331-0290まで



福玉便りの全バックナンバーのデータ、最新情報はNPO法人埼玉広域避難者支援センターのホームページにあります。
→ <http://fukutama.org/>



○さいがい・つながりカフェ

「あれから6年、そしてこれから この6年間に生きてきたこと、考えてきたこと」

さいがい・つながりカフェでは、毎年3月末、いろいろな方の話を聞きながら2011年3月の地震・津波・原発事故の経験から何を教訓とし、引き継がねばならないのかを参加者一同で考えています。今年は、昨年4月に熊本地震が起こったことも踏まえ、避難生活、避難計画について改めて考えることにしました。

薄井からさいがい・つながりカフェの様子を紹介、With Youさいたま事業コーディネーター瀬山紀子さんよりWith Youさいたまでのこれまでの防災への取組を報告したあと、

「被災者支援を防災につなぐ取組みから」とのタイトルで大分県別府市企画部危機管理課の村野淳子さんより別府市での取組を中心にお話しただきました。村野さんは東日本大震災の

際に避難所の環境改善に取り組んだ経験から、被災者自らが自分の命と暮らしを守るために避難所運営を行うための独自の訓練等を実施しています。「別府市障がいがある人もない人も安心して安全に暮らせる条例」の施行後、障害者の個別支援計画のモデル作りにも着手しています。せっかく助かった命を避難生活の中で損ねてはならないという強い信念から、一人一人に合った支援体制づくりに行政や関連機関、地域住民等を巻き込んでいく村野さんの粘り強さに参加者一同圧倒されました。一人の命を多数の連携によって見守っていく個別支援への取組は、災害対応事業となってはいますが、小さな単位で助け合う体制を構築するという共助まちづくりであり、そうした平時の取組が「減災」はもちろんのこと、広域避難後の生活支援、誰も取り残さない支援にもつながることが理解できました。

フロアからは原発事故避難後

の避難所で
の体験や避難所に支援に入った時の様子を共有してもらいました。また「別府市において伊方原発事故からの避難計画はどうなっているか」との問いかけがありました。大分県では、原発事故について十分な備えや対策まで及んでいないという村野さんの回答を聞き、まだまだ福島ของ教訓が伝わっていない、私たちも伝えきっていないことを痛感しました。



一方、福島県の11市町村で今春までに帰還困難区域を除くほとんどの地域の避難指示が解除されましたが、原子力災害が万が一再びあった場合に備えて住民の避難計画は策定されているのだろうか、と気になりました。

今後避難されてこられた方々からしつかり学び、原発避難の問題を広く伝えていく役割を共に果たしたいと思っています。(さいがい・つながりカフェ実行委員会・薄井)

お便り募集！コーナー ふと口ずさむ、心に残る歌、 唄、詩は何ですか？

私が毎月参加している交流会ではおしゃべりを十分したあと、参加者全員で歌を歌うことが恒例になっています。レパートリーは実にさまざま、童謡、唱歌、時には民謡も。歌集を見て「これが歌いたい」と誰かが選び、「いいね！」と賛同して歌うことが多いです。カラオケに行けば、懐かしの歌謡曲が多いでしょう。合唱をしたり、人の歌を聞いていると、上手下手は置いといて、好きな歌を歌うって大切なことなんだなあと思うようになります。歌詞とメロディーが、自分の中の言葉ではうまく表せない気持ちとか、忘れていた感情などを引き出してくれるからでしょうか。つい過去のことを思い出して胸がつかまることもあれば、励まされることもあります。絵画や映画や小説等々、いろいろな表現方法はあるけれど、歌(音楽)は誰にとっても身近で、心に直接響くように思われます。

皆さんは、どのような歌が好きですか、また、ふとした時に口ずさむような歌はありますか？「花は咲く」もまあ悪くはないですが：離れた故郷を思う歌や今の生活の中の支えになっているような歌やフレーズがあれば、教えていただけませんか？その歌にまつわるエピソードや思いなども一緒に書いて編集部まで送っていただければ幸いです。よろしければ紙面でご紹介させていただきます。もちろん匿名でも構いません。お便りお待ちしております。

(編集部・薄井)

「震災から六年、広域避難者の生活と支援を考える

〜いま、埼玉の行政と市民にできること〜

NPO法人埼玉広域避難者支援センターでは、2月28日に浦和コミュニティセンターで、表題のシンポジウムを開催いたしました。避難された方々、埼玉県の方々、マスメディアの方々など、50名を超える参加がありました。

シンポジウムではまず、福島大学の今井照先生から、「被災者調査から考える自治体の使命」という基調講演をいただきました。今井先生は、2011年から朝日新聞と共同の「原発災害避難者実態調査」を継続的に実施されてお



当日は第6次調査(今年1〜2月実施)の結果を中心に、ご報告いただきました。主な内容として、帰還についての意向がしばしば「帰りたい/帰りたくない」という選択肢で調査・報道されていることを批判された上で、「1.元のまちならぬようになれば帰りたい」「2.元のまちならぬようにならなくて帰りたい」「3.元のまちならぬから帰りたい」という4つの意見が、元々のまちならぬという4択で尋ねたところ今回の調査では「1〜3」が約85パーセントを占めること。避難指示解除の方針には「反対」「どちらかといえば反対」が約6割を占めたこと。避難

による差別やいじめの被害について、「自分や家族が被害に遭った」「(周囲で)見聞きしたことが

ある」が約6割を占めたこと、などをご報告いただきました。そして、自治体には「①土地の区分、②人と人との関係、③政治・行政組織」という3つの顔があるにもかかわらず、散らばっている人も含めて福島県や各市町村の「住民」であることが忘れられているのではないか、「復興」には「人々の生活再建と空間の再興」という2側面があるにもかかわらず、「復興の加速化」が言われる中で「空間の再興」だけが加速化して「人々の生活再建」がおろそかにされているのではないかと、問題提起をいただきました。

続いて、埼玉広域避難者支援センター理事の原田・永田・吉田が、それぞれ報告を行いました。原田からは、『福玉便り・春の号外』で実施した自治体・避難者アンケートの結果を紹介し、「住まいの問題や孤独感・不安感の蓄積」が特に問題とな

ることをお伝えしました。永田からは、埼玉労福協や『福玉便り』、復興支援員などが行ってきた埼玉県内の避難者支援の取り組みを紹介し、「支援する/される」という関係を超えて、一緒に生きる関係を作ることの重要性をお伝えしました。吉田からは、埼玉県における区域外避難者の現状や住宅支援の取り組みについて紹介し、避難継続の背景には放射能の汚染だけでなく原発の状況への不安や6年間の生活の蓄積があり、受け入れ自治体にできるのは「今決められない人をお待ちすること」ではないかとお伝えしました。

参加者の方々の質疑応答のうち、埼玉広域避難者支援センター代表理事の西城戸から「7年目に入

るが、しっかりと、じっくり、ゆっくと、この問題に取り組んでいきたい」という挨拶ののち、閉会となりました。

ご登壇いただいた今井先生およびご参加いただいた皆様、ありがとうございました。(編集部・原田)

原子力損害賠償・廃炉支援機構の説明会・相談会

◇日時 平成29年5月13日(土)午前10時~午後4時

◇会場 ときわ会館5階(さいたま市浦和区常盤6-21-4) 電話 048-822-4411

今年度初めての「原子力損害賠償・廃炉支援機構の説明会・相談会」が開催されます。原発事故の損害賠償に詳しい弁護士さんが最新の賠償内容について全体説明を行い、その後、個別に相談をお受けします。この説明会・相談会は無料です。

3月31日に浪江町、4月1日に富岡町などの避難指示が一部解除されました。損害賠償について改めて考えるときです。

このときわ会館での「説明会・相談会」をご活用下さい。

すでに住居を購入された方 これから住居を買おうとしている方 家族が分離してどこに住もうか迷っている方
帰還か移住か決めかねている方 住居確保損害賠償のご案内請求書が届いていない方 住居確保損害賠償の請求書を見ても、内容が細かくわからない方

※旧緊急時避難準備区域から避難されている方や自主的避難の方も個別に相談できるので、ぜひご予約下さい。

◇お問合せ、お申込みは「原子力損害賠償・廃炉支援機構」へ直接お願いします。0120-330-540

住宅問題を考える

川越市が区域外避難者に2万円の家賃補助

埼玉県川越市は4月3日、区域外避難者の借上住宅打ち切りを受け、上限2万円の家賃補助を要件なしで一律に行うことを発表しました。対象となるのは、2016年4月1日時点で福島県から川越市に区域外避難していた世帯のうち、今年四月以降も同市内で家賃や共益費の負担がある家庭です。期限は2年間で、福島県の支援施策で賄えない負担分を補助するとしています。

借上住宅の打ち切り後は、家賃負担もあり、経済的に逼迫し



ている区域外避難者の方の中には「今後、どう暮らしていけばいいのか」という不安を抱えている人もいます。実際に「引っ越し費用を工面するのも苦しい」という声もありました。そういった区域外避難者の方たちにとっては、避難先による具体的な経済支援は、心強いものです。

川越市では、2016年6月から「原発避難者と歩む@川越」が立ち上がり、勉強会を重ねながら、川越市との交渉を繰り返して、署名運動も行っていました。川越市長との面談は10回以上上ります。会の一員であるいわ

き市から避難している鈴木直子さんは、「要望書や請願書では、福島県も国も動いてくれない。だから避難した自治体と動こうと思いました。声を上げられない避難者が、まだまだいます」と話しています。

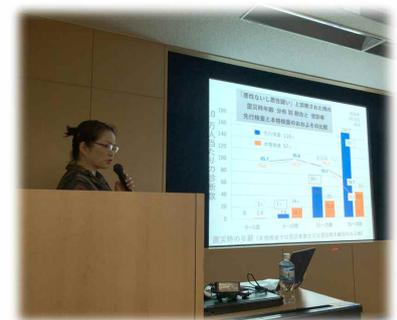
声なき声に耳を傾け、ぜひ、埼玉県内でも、川越市の動きが広まってほしいと願っています。

(編集部・吉田)

「臨床医に教えてもらう」『甲状腺』と原発事故の健康影響の「こ」報告

3月25日 With youやいたま

主催：埼玉広域避難者支援センター



世界における評価、臨床医としてあたってきた相談会や10万人あたりの診断数、甲状腺がんの術後診断等、さまざまな角度からのお話をしてくださいました。

3月25日、さいたま市にて、内科医の牛山元美先生の甲状腺に関する勉強会が開催され、老若男女、およそ20名の方が参加されました。原発事故後、福島県の子ども(当時18歳以下)約38万人を対象にした甲状腺検査で、これまでに甲状腺がんとされたのは185人。福島県の甲状腺検討委員会は「被ばくの影響は考えにくい」としていますが、深い議論は避け続けています。

牛山先生は、甲状腺がんの原因とされる放射性ヨウ素の事故後の動きから、チエルノブイリを含めた

「放射能がもたらす健康被害が知らなかった事が多くあり、子どもの年齢のデータも詳しく説明されていたので今後の参考になりました。今後、気をつけなければいけない事も知れて良かったです。(40代女性)」「帰町に向け安全・安心を唱えているが、講演会により、今まで以上に放射線の恐ろしさを知る事が出来ました。牛山先生のお話を我が町にも聞かせたいと思いました。(70代男性)」「実際の先生からのお話ですが聞け、実話が聞けてよかったです。安心、安全と言われると流されてしまいが、やっぱり良くな



(編集部・吉田)



福島県県外避難者相談センターです



昨年6月に開所しました相談センターも1年が経ちました。
今年はたくさんの方に相談センターのことを知っていただき、相談だけではなく、この場を利用していただきたいと思います。

Q 相談センターはどんなところ？

コーヒーやお茶、ちょっとしたお菓子がありますので、福島の新聞（福島民友・福島民報）で地元の情報を見たり、世間話をしたり、またお友達と集う場として、ご利用ください。また、月曜日は看護師による血圧測定や健康相談ができます。常設の「情報コーナー」には福島や埼玉のお役に立つ情報がおいてありますのでご利用ください。「相談コーナー」での来所での相談、電話等による相談もできます。

Q どんな相談ができるの？

- 健康のこと：月曜日は看護師による健康相談ができます。
- 仕事：(例) 福島に戻ることにした。希望職種を探したいがどこで探せばいいの？
- 一般的な制度：(例) 医療費が高額になった場合の相談窓口は？
(例) 生活に困ったらどこに相談したらいいの？
(例) 要介護(要支援)認定の申請先は？
- 病気や障害の状態になったとき

(例)利用できるサービス・制度についての相談窓口は？

そのほかにも住居のことやよろずのご相談をお受けします。相談できる窓口の連絡先をご案内し、解決に向けお手伝いします。

また、「誰かに話をきいてもらいたい」と思われている方、お名前をおっしゃらなくても大丈夫ですので、お電話ください。

※フリーダイヤルは通話料の心配がありません。お気軽にご相談ください。

フリーダイヤル：0120—60—7722 FAX：048—816—4800

E-mail：fukushima_soudan@yahoo.co.jp 受付時間 月～金曜日午前9時～午後5時(祝日・年末年始を除きます)
〒330-0061 さいたま市浦和区常磐6-4-21 ときわ会館1F

東日本大震災復興支援能「息吹の会」からのご案内



能楽師らによる「息吹の会」は、東日本大震災からの復興を支援したいという思いから発足しました。東京公演での収益をもとに被災各地で7回の入場無料の公演を行い、このたび、2017年の夏に活動の集大成として以下の通り都内で最終公演を催すこととなりました。本公演が今後の支援の在り方を皆様とともに考える場となるよう心を尽くして勤めさせていただきます。

今まで能の舞台を鑑賞されたことがない方でもわかりやすい内容とな

っております。

今回は、被災された方々を70名ご招待させていただくことにいたしました。ぜひこの機会にご家族やご友人をお誘い合わせの上、楽しんでいただければと思います。ご紹介の対象は、埼玉県で暮らしている方に限定しておりませんので、他県や都内にお住まいのご親戚やご友人にもお声かけいただき、ご一緒にひと時をお過ごしいただく機会になりましたら幸いです。

また、支援にあたっておられる

方々にも足をお運びいただき、共に楽しんでいただければ幸いです。本公演の収益は全額被災地に寄付させていただきます。

実行委員一同、皆様に楽しんでいただけるよう準備を進めているところです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

東日本大震災復興支援能『息吹の会』実行委員会一同

東日本大震災復興支援能

息吹の会—最終公演

平成29年7月30日(日) 開場 午後1時 / 開演 午後2時
於：十四世喜多六平太記念能楽堂(目黒駅より徒歩7分)
〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

*被災された方以外の料金(全席指定)は3,000円です。

今回の講演に際して「息吹の会」とのやりとりは薄井が担当しております。鑑賞ご希望の方は薄井までお気軽にご連絡ください。ご住所をお伝えいただき次第、詳細と鑑賞券を郵送させていただきます。お申し込みをお待ちしております。

薄井の連絡先 携帯電話 080-5532-7380

メール usui0911@gmail.com

鵜沼久江さん

双葉町細谷字熊の沢から
加須市に避難

地震があつたときはうちに

いたの。家には誰もいなくて、孫は小学校に行つてたので、孫を迎えに行つた。夕方になつてから「避難しなさい」って大熊の防災

無線にいわれて、お隣さんが車ないもんで、心配だったから一緒に公民館に連れて行つたの。そんでなきや私、避難しない。牛がいるからね。公民館にお隣さん連れて行つてから、また家に戻つたの。牛を世話しながら、余震

が怖くて一晩中、お父さんと車にいたの。
12日の朝7時になつて、公民館に行つてみたら、「ミニ

からも避難だよ」って言われたんだよ。役場の人には、「10キロ圏外に行け。双葉町民はみんなで川俣に行く」と言われたね。でも川俣まで行つたら、私ら牛の世話しに帰れないよ、遠くて。10キロ圏外から津島の方でいいだろう、

って。途中はずーっと渋滞してたね。渋滞の中で知り合いがいて、津波の話をしていて、それで初めて津波のことも知つたの。

その日ついた避難所で、暗くなつてから、東電の制服着た人が家族を探しながら「メルトダウンしてんだ、こんなところはいちやいけ

ないんだ、早く逃げろ」って誰にいうともなく言つて歩いてたよ。このときはじめて原発が危ないんだって知つた。

友達もそれを聞いて、「もう逃げなきや」って。だけど、私は「牛がいるから、動かないから」って。その頃、遠くへ逃げるっていう考えは全くないのね。その夜、屋内退避、外に出ちやいけませんよって言われた。扉きちんと閉められて。

次の日、避難所の友達が、「買い出しに行こう」っていうの。「食べ物なくて、これじやあ生きていらんないから」



って。だけどお父さんが買ってきたのは、牛に水持つて行くポリバケツ。「俺は牛のバケツ買って来た」そうだね、水もつてかないと無いからね」って。私ら、それしか考えないもん。それを見かねて、隣にいた人が「食え」って言つて惣菜とかお菓子とかくれたんだ

よ。買つてきたポリバケツは積みっぱなしになつちやつた。パリーカードで入れ

ないっていうのを言われたから。おまわりさんに、「どうしても牛が死んでしまうから帰んなきやいけな」って

許可出せないわね。
14日に、浪江町の役場の人に今度は、「ミニを出て二本松に行きます」って言われたの。私はとにかく動きたくないから、「トイレ、私も掃除します」って。そこにいる時間

を長くして、なんかあつたら、帰つてやる、と思つて。でも結局、津島高校を出なくてならなくてさ。「しょうがないから、二本松のほうに行つてみるか」って、出発したのは午前中かな。ミニ周辺の記憶が、わかんないんだ。これで、牛にえさをやれ

なくなつて2日目だ、もう水が限界だ、って。それだけは数えてたから、日にちとか時間は数えてない。

針道では廃校になつた学校の体育館に行つたんだけど、そこでもらつたのが、おにぎり毎日一個。3食きただけで、一回がパン一枚だけで、これは、半分ずつだ、って。

17日に、双葉の人から、「今度埼玉に行くことになつたけど、おまえらどうすんだ」って連絡がきたから、「とにかく、川俣まで行く」って。双

葉町の畜産農家の人の賠償問題とか、いろんなことが起こるだろうからって。お父さんが双葉町で唯一の畜産の役員してたから。

でも、ガソリンがなくて、出

発できなくて、浪江の知人に言つたら「連れてつてあげる」って言つてくれて。その人が車の中で、「鵜沼さん、埼玉に行くならこの福島県

の状況を全国の人に知らせたい。テレビでは、ぜんぜん伝わってない。今ある状況を、みんなに知らせてくれないか」って真剣に言われたの。それははつきり覚えてる。

川俣に着いたのは17日の夕方。避難所に入れてもらつて、みんなと一緒に19日にバスでアーリーナに来れたんだ。その頃は、どんなことをテレビでやってたかぜんぜん知らないじゃない。爆発したのは、なんとなく知つた。その頃になると、牛死んでるな、って思つてた。死んだの見たくない、って思つてた。

騎西高校には30日についてた。その頃は「帰りたい」から「いつ、帰れるんだろう」に変わったかな。「6月には帰れるかな」にはじまって、次は「お盆までには」。その次は

「お正月までには」って。一時

「お正月までには」って。一時

浪江町復興支援員さんより

帰宅が始まるまではそれこそ、「明日帰れ」って言われるかもと思ってた。

4月になって、騎西高校の中にハローワークが出来たのね。動いてんのが楽だもんね、私はね。「何か仕事ありませんか」って聞いたたら農業出来る仕事があったわけね。「双葉に帰った時、もう牛はできないけど野菜作りはできるんじゃないかな」って思ってた。この仕事なら、農業を覚えて帰れる、そう思ってた4月から働き始めたの。

私ら、8月の26日まで一時帰宅できなかったの。死んでると思ってた牛はやっぱ死んでた。20頭くらいかな……。お父さんの見てた子牛は大きくなってから、外に逃げられたの。私の見てた子牛は、ダメ。ちっちゃくて、外に出る勇気がなかった。

骨が片付いたのは2年半以上過ぎてからなんだよ。あの時の牛の臭い、まだ残ってるような気がする。あそこで生活するってのはつらいよね。牛の声だって人間と同じで、一頭一頭みんな違うし、顔だって違うし、それが

みんな見えるような気がする。

結局、騎西高校には、2013年8月頃までいて、2015年12月から今の家に来た。お父さんがガンになっちゃったからね。去年と今年と2回、続けて切って、治療できる病院がそばにないと、もう帰るのは難しい。お父さんが元気なうちに、死ぬ場所を探した方がいいんじゃないかなって。一番に考えたのは、それだよ。

でも、家を買っても、こっちに定住って感じでも無いんだよ。どこに行っても「原発避難者であること」はついて回る。「万が一、次の事故があったら、みんなこうなるんだよ」ってちゃんと伝えたいな、って思うの。

※久江さんからお話を伺ったのは2016年8月でした。夫の一夫さんは2017年2月23日に永眠されました。編集部一同、心より冥福をお祈りいたします。久江さん、取材にに応じてくださり、ありがとうございました。

(聞き手・編集部・吉田)

復興支援員さんから

「散歩だ散歩。毎日7キロ歩ってる。」
「地元の人と友達になって、しょっちゅう呑み行ってっぺ。」
「昼間のカラオケね！夕方5時には帰って来っけどね。」
「地元の写真クラブに入って、今パソコン習ってる。」

「80代の姉妹で、旅行に行ってる。国内の温泉。」
「自転車で東京まで行くんた、30分かけて。」
「公園の散歩かなあ？このあいだ郡山の人会った。」
「百歳まで生きて浪江に帰んだ！体鍛えねえど。」
「午前中だけ近所の幼稚園に手伝いに行ってるの。」
「毎月1回歩け歩けだあ。2万歩あるんだ。」
「麻雀な。近所の退職者と、掛け無しで。」
「週二回、看護師の仕事をしています。」
「角上の刺身、あれ美味いんだっけえ。最高だ！」

「畑借りて、野菜作ってるの。このトマトうめえから食ってみい。」
「釣りに行ってきたよ。鮎釣り。釣れんのは俺だけだ！」
「3日かけて、和紙で押し絵を作ってる額に飾ってあるの。額10枚ほど。」
「近所の中学校でテニス教えているよ。忙しいよー！」
「韓ドラにはまっています。」
「孫の学校の送り迎えが忙しくてえ〜」
「追っかけね！ 演歌歌手の〇〇さん。」

このように避難先での楽しい話を聞く一方で、避難をして6年を過ぎ、75歳だった方は81歳になり、「脳梗塞を患い体がボロボロだあ」とおっしゃる方もいらつしやいました。「次に会うときは自宅に来てもらえないよお。浪江のお墓に来てちょうだい」と笑顔で言われた時には、思わず泣けてくることもありました。

戸別訪問時に健康状態の確認、困っていること、愚痴などを聞くこともお仕事を。ご無礼なこともあるかとは思いますが、今年度も宜しくお願い致します。

(浪江町復興支援員 埼玉駐在 佐藤淳一)

29 鳩のつどい
 月2回 10:00～12:00
 JAXA鳩山宿舎108号室
 ☎049-296-1241(鳩山町健康福祉課)

32 福玉・謡曲の会
 5/21(日)、6/17(土)10:30～12:00
 WithYouさいたま和室
 ☎090-6128-1948(小林さん)

33 つながり
 毛呂山町 ☎090-9032-8116 河井さん

1日(月)	
2日(火)	
3日(水)	4
4日(木)	3
5日(金)	
6日(土)	8
7日(日)	
8日(月)	
9日(火)	
10日(水)	14
11日(木)	3 19
12日(金)	
13日(土)	
14日(日)	
15日(月)	
16日(火)	
17日(水)	18
18日(木)	1
19日(金)	
20日(土)	27 8 10
21日(日)	15 27 32
22日(月)	4
23日(火)	福玉便り発送 13:30～
24日(水)	
25日(木)	19 ★
26日(金)	
27日(土)	16
28日(日)	25 28
29日(月)	
30日(火)	
31日(水)	



福玉便り発送
13:30～



16 あゆみの会
 5/27(土) お茶っこふるさと会と
 合同のボーリング大会&交流会
 14:30～ 春日部ターキーボール、
 18:00～「街の定食屋やあこんにちは」
 越谷市 ☎090-9425-2001(石上さん)

17 つながりの会
 東北復興支援販売
 草加市物産・観光情報センター
 ☎048-932-6770(草加市社協地域福祉担当)

18 ひまわりの会
 5/17(水)、6/21(水)10:00～
 やすらぎ会館
 ☎080-5431-0123(島田さん・留守電)

**19 さいがい・
つながりカフェ**
 月2回木曜日11:00～15:00
 5/11(木)、5/25(木)、6/8(木)、6/22(木)
 With You さいたま 4F 和室
 (埼玉県男女共同参画センター・新都心駅7分)
 04さいがい・つながりカフェ ☎048-601-3111, tu-
 nagari.saitama@gmail.com

22 浪江のしゃべり場
 浪江町の復興支援員が常駐していま
 す。お気軽に遊びに来てください。
 月曜日～金曜日10:00～17:00
 浪江町復興支援員 埼玉事務所
 さいたま市 ☎048-833-8731(埼玉労働協)

**23 和光3・11
つながりカフェ**
 ☎048-452-7606(和光市ボランティアセンター)

**24 新座さいがい
つながりカフェ**
 新座市 ☎090-2402-9155(谷森さん)

25 青空あおぞら
 5/28(日)新緑会、6/25(日)
 13:30～16:00
 新所沢公民館 2F和室1号・緑町
 中央公園(5月)、新所沢公民館(6
 月)(お子様OK)
 所沢市 ☎048-829-7400(SSN)

26 お茶飲み交流会
 隔月1回 10:00～12:30
 ☎049-251-2711(富士見市安心安全課
 梶田さん)

27 おあがんんしよ
 5/21(日)、6/18(日)
 定例サロン 13:00～フクトピア
 ☎090-5345-8408(松館さん)

28 ここカフェ@川越
 5/28(日) BBQ 10:00～15:00
 JUN ホール
 ☎070-5594-0053(鈴木さん)

**4 加須ふれあい
センター**
 5/3(水) 加須市平和祭に出店
 利根川河川敷
 5/22(月) 定例総会14:00～16:00
 6/17(土) ふれあい朝市バザー
 10:30～14:00
 加須市正能11-5 ☎090-1650-2874(富沢さん)

5 ぴえろの遊び広場
 sai.jacdp@gmail.com(坂本さん)

6 負けねっちゃきらり
 石巻から伊奈町に避難されている高橋さん
 が呼びかけています。どなたでもどうぞ。
 伊奈町 ☎090-7244-9267(高橋さん)

7 向原団地被災者の会
 時々交流会しながら、つながって行き
 ましょう(*^o^)/＼(^-^*)
 上尾市 ☎080-6044-2922(富永さん)

**8 東日本大震災に咲く会
ひまわり**
 毎月第1土曜日
 5/6(土)、6/3(土) 定例会合
 10:00～12:00 シラコバト団地第
 一集会所
 5/20(土) 上尾市白樺団地自治会
 のカレーフェアに参加
 11:30～上尾市 ☎048-607-6723(団地
 自治会事務所)、☎080-3091-6215(橋さ
 ん)

10 くまがや結の会熊谷市
 5/20(土)ランチ&交流会
 11:30～食事処和とう
 090-7661-9236(林崎さん)

11 羽生つながりカフェ
 羽生市 ☎080-5532-7380(薄井さん)

12 お茶っこふるさと会
 久喜市 ☎090-6855-7140(木幡さん)

**13 杉戸元気会
つつじの里サロン**
 ☎0480-33-3455(佐藤さん)

14 春日部つながりカフェ
 5/10(水)、6/7(水)
 13:30～16:00 コープブラザ春
 日部(法律相談可能)
 ☎048-829-7400(SSN)

15 ひだまり広場
 5/21(日)、6/18(日)12:30～
 16:30 参加費無料
 ほっと越谷(北越谷駅東口1分)
 ☎090-6456-5497(今野さん)

1日(木)	3
2日(金)	
3日(土)	8
4日(日)	
5日(月)	
6日(火)	
7日(水)	14
8日(木)	19
9日(金)	
10日(土)	
11日(日)	
12日(月)	
13日(火)	
14日(水)	
15日(木)	1
16日(金)	
17日(土)	4 32
18日(日)	15 27
19日(月)	
20日(火)	
21日(水)	18
22日(木)	19
23日(金)	
24日(土)	
25日(日)	25
26日(月)	
27日(火)	
28日(水)	
29日(木)	
30日(金)	



**1 双葉町民による
ボランティアカフェ**
 5/18(木)、6/15(木)
 藤の花(5月)・あじさい(6月)がき
 れいなら玉敷神社へお散歩
 いきいきサポートセンター
 (双葉町社会福祉協議会 加須事務所)
 加須市騎西501-13 ☎048-829-7400 SSN

**3 双葉町老人クラブ女性会
&さいがいつながりカフェ**
 5/11(木)、6/1(木)10:00～12:00
 いきいきサポートセンター
 (双葉町社会福祉協議会 加須事務所)
 ☎080-5532-7380(薄井さん)

福島原発事故責任追及訴訟 第16回期日
 訴訟後の報告集会では、当日の法廷でのやりとりを分かりやすくご説明します。ぜひ一度傍聴にお越しください。【日時】5月24日(水)15:00【会場】さいたま地裁101号法廷【交通】JR浦和駅西口より徒歩約10分【詳細】<http://fukusaishien.com/>【問合せ】048-960-0591(みさと法律事務所)

こちらのサイトにも情報があります。
<http://431279.com/>
 (SSN震災支援ネットワーク埼玉)